

学校長御留書

加古川市立志方東小学校
令和5年度
学校便り夏休み特別号
第3号
R5.7.26発行

マイクロアグレッションを吹っ飛ばせ！

25日(水)14時より、加古川市立若宮小学校職場人権研修の講師として、話をしてきました。演題は「マイクロアグレッションを吹っ飛ばせ 一働きやすい職場をめざして」です。「マイクロアグレッション」とは、小さなけなしと訳されます。以下は内容の概要です。

- **マイクロアグレッション…日頃から心の中に潜んでいるものが口に出たということであり、口に出した本人に誰かを差別したり、傷つけたりする意図があるなしとは関係なく、対象になった人やグループを軽視したり、侮蔑するような敵対、中傷、否定のメッセージを含んでおり、それゆえ受けての心にダメージを与える言動**
- **特徴—私たちの日々の生活や会話の中で「ふつう」に語られることが多く、発した本人もその問題性(加害)に気づかない「差別するつもりはありませんでした。誤解を招く表現で申し訳ありませんでした」→「誤解したあなたたち(の聞き方や理解)に問題がある」を含んでしまう表現**
- **問題—言動の背景…他者に対する無意識の偏見や蔑視が含まれており対象にされた(個人や集団)を深く傷つける→不当に扱うことが「アタリマエ」とされ、差別する空気を社会のスタンダードにしてしまうという問題=誰もが人として持っている幸せに生きる権利を奪うことにつながる**

マイクロアグレッションとたたかう

- 1 気づくことから始める 自分の中に根付いている偏見や優越感によるものではないということに気づこうとする姿勢
→ 言葉や表情など、他者の反応に敏感になること
- 2 働きかける存在になる 「気がついたら声をあげる」という行動
個人を責めるよりも「何が問題なのか」を語り合う姿勢
- 3 リテラシーと学ぶこと 「情報を読み解く力」は気づいたり、働きかけるのにもこの力が必要
根底にある認識の多くは、偏ったものの見方・考え方に起因している → しっかり学ぶ



参考にした本を紹介します

- ◇『マイクロアグレッションを吹っ飛ばせ 一やさしく学ぶ人権の話一』 渡辺雅之(高文研)
- ◇『ほんとうの多様性についての話をしよう』 サンドラ・ヘフェリン(旬報社)
- ◇『差別はたいてい悪意のない人がする 見えない排除に気づくための10章』
キム・ジヘ著 尹怡景訳(大月書店)

若宮小学校の人権担当の先生が、私の話を聞きたいと声をかけてくださり、今回の研修が実現しました。教職員の方々は、熱心に耳を傾け、途中にはさんだ事例についてのグループワークでは、活発な意見交流が見られました。その様子だけでも、風通しのよさそうな職場だと感じました。貴重な機会を与えていただき、ありがとうございました。